

平成19年度独立行政法人国立美術館年度計画

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

国立美術館は、利用者のニーズ、研究成果等を踏まえ、各館の特色を活かした常設展を開催するとともに、メディアアート等新しい領域の芸術表現、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携による世界の美術の紹介などを目指した企画展を開催する。また、海外において我が国の美術・工芸の動向を世界に紹介する展覧会を開催する。

映画については、我が国の映画史が系統的に理解できる作品や、新たに発見され修復された作品を紹介する企画上映を実施する。

なお、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会等に反映させるよう努める。

(東京国立近代美術館)

本館・工芸館 目標入館者数計：59万8千人

<本館>

常設展については、近代日本美術の流れを網羅する館として通史的展観を堅持するとともに、岸田劉生、梅原龍三郎、萬鉄五郎らの個別作家や、明治期の点描表現、大正期東京の都市文化、現代美術と社会動向との関連についての研究成果を基に小企画展を行う。

企画展については、時代(戦前・戦後)及び地域(国内・海外)のバランスを考慮しつつ、これまで紹介される機会の少なかった戦前の洋画家の個展(鬘光展)、戦後活躍した日本画家の個展(平山郁夫展及び東山魁夷展)、同館では初めての近代日本彫刻の通史展、海外のきわめて重要な写真家の回顧展(アンリ・カルティエ＝ブレッソン展)などを開催する。

目標入館者数計：52万4千人

ア 常設展 目標入館者数計：19万4千人

「近代日本の美術」展 5回展示替え

10回程度の小・中規模の特集展示

イ 企画展 目標入館者数計：33万人

(ア)「鬘光展」

期間：平成19年3月30日(金)～5月27日(日)

(53日間(うち平成19年度51日間))

共催：毎日新聞社

目標入館者数：3万3千人（うち平成19年度3万2千人）

（イ）「アンリ・カルティエ＝ブレッソン展」

期間：平成19年6月19日（火）～8月12日（日）（48日間）

共催：マグナム・フォト東京支社、日本経済新聞社

目標入館者数：3万2千人

（ウ）「アンリ・ミショー展」

期間：平成19年6月19日（火）～8月12日（日）（48日間）

会場：ギャラリー4

目標入館者数：2万6千人

（エ）「平山郁夫展」

期間：平成19年9月4日（火）～10月21日（日）（42日間）

共催：読売新聞社

目標入館者数：20万人

（オ）「日本彫刻の近代」展

期間：平成19年11月13日（火）～12月24日（日）（37日間）

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：1万人

（カ）現代美術展

期間：平成20年1月18日（金）～3月9日（日）（45日間）

目標入館者数：1万1千人

（キ）「東山魁夷展」

期間：平成20年3月29日（土）～5月18日（日）

（46日間（うち平成19年度3日間））

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：28万4千人（うち平成19年度1万9千人）

<工芸館>

常設展では、近代工芸・デザインの歴史の中で、特徴的な技法・素材や作家・作品を取り上げ、個別に紹介する「友禅と型染／元祖インダストリアルデザイナー：クリストファー・ドレッサー」、「世界のガラス」、「花と人形」展を開催する。

企画展では、これまで本格的に取り上げられることのなかった陶芸家・岡部嶺男の全貌を紹介する初めての回顧展を開催するとともに、工芸館が開館30周年を迎えるのを機に、コレクション形成と各展覧会活動等、これまでの成果を検証し、今後の工芸館のあり方や工芸の将来を展望する記念展を開催する。

目標入館者数計：7万4千人

ア 常設展 目標入館者数計：4万3千人

「近代工芸の名品」 3回展示替え

イ 企画展 目標入館者数計：3万1千人

（ア）「岡部嶺男展」

期間：平成19年3月6日（火）～5月20日（日）

（69日間（うち平成19年度45日間））

目標入館者数：1万6千人（うち平成19年度1万1千人）

（イ）「工芸館開館30周年記念展」

期間：平成19年10月6日（土）～平成20年2月17日（日）（105日間）

目標入館者数：2万人

（ウ）「わざの美：日本の伝統工芸50年」展

期間：平成19年7月19日（木）～10月21日（日）

会場：大英博物館

主催：大英博物館、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、日本工芸会、
国際交流基金

協力：文化庁、全日本空輸株式会社

企画協力：朝日新聞社

<フィルムセンター>

上映会では、監督、スタッフ、出演者等に関する研究成果をもとに、コレクションの中から芸術的、歴史的、文化的に優れた企画上映を実施する。

展覧会では、スチル写真やポスターなどの紙資料コレクションを活用した「スチル写真でみる日本の映画女優」、外部機関の協力による「チャップリンの日本」及び「マキノ映画の軌跡」を開催する。

上映会・展覧会 目標入館者数計：11万1千人

ア 上映会 目標入館者数計：10万人

（大ホール）

（ア）「追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄」

期間：平成19年4月17日（火）～6月10日（日）（42日間）

目標入館者数：1万1千5百人

（イ）「映画監督 川島雄三」

期間：平成19年6月12日（火）～5月9日（水）

平成19年5月17日（木）～7月22日（日）（36日間）

目標入館者数：1万6千5百人

（ウ）「特集・逝ける映画人を偲んで2004-2006」

期間：平成19年7月27日（金）～9月26日（水）（51日間）

目標入館者数：1万6千5百人

（エ）「ウズベキスタン映画祭2007」

期間：平成19年9月27日（木）～10月7日（日）（10日間）

共催：ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金

目標入館者数：2千人

（オ）「日印交流年 インド映画の輝き」

期間：平成19年10月9日（火）～11月16日（金）（34日間）

共催：インド政府映画祭監督局

目標入館者数：7千人

(カ)「第8回東京フィルメックス 山本薩夫監督特集」

期間：平成19年11月17日(土)～11月25日(日)(8日間)

共催：特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会

目標入館者数：3千人

(キ)「ヨーロッパ映画名作選」

期間：平成19年12月4日(火)～12月27日(木)(21日間)

目標入館者数：5千5百人

(ク)「生誕百年 映画監督 マキノ雅広」

期間：平成20年1月5日(土)～3月30日(日)(74日間)

目標入館者数：2万4千人

(小ホール)

(ケ)「EUフィルムフェスティバル2007」

期間：平成19年5月10日(木)～5月27日(日)(14日間)

平成19年5月10日(木)～5月16日(水)：大ホール

平成19年5月12日(土)～5月27日(日)：小ホール

共催：駐日欧州委員会代表部

目標入館者数：3千人

(コ)「映画の教室2007」

期間：平成19年6月15日(金)～7月1日(日)(9日間)

金、土、日のみ上映

目標入館者数：2千5百人

(サ)「2006年度アンコール特集」

期間：平成19年8月10日(金)～8月26日(日)(9日間)

金、土、日のみ上映

目標入館者数：2千人

(シ)「ポーランド短篇映画選」

期間：平成19年9月18日(火)～9月30日(日)(12日間)

共催：ポーランド映画選実行委員会

目標入館者数：3千人

(ス)「日本の文化・記録映画傑作選」

期間：平成19年12月7日(金)～12月23日(日)(9日間)

金、土、日のみ上映

目標入館者数：1千5百人

(セ)「アメリカ古典映画名作選」

期間：平成20年2月～3月の間に実施予定(9日間)

金、土、日のみ上映

目標入館者数：2千人

イ 展覧会 目標入館者数計：1万1千人

(ア)「スチル写真でみる日本の映画女優」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成19年4月24日(火)～10月21日(日)(153日間)

目標入館者数：6千人

(イ)「没後30年記念 チャップリンの日本 チャップリン秘書・高野虎市遺品展」
(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成19年10月30日(火)～12月27日(木)(45日間)

目標入館者数：2千人

(ウ)「マキノ映画の軌跡」(併設：「展覧会 映画遺産」)

期間：平成20年1月8日(火)～3月30日(日)(72日間)

目標入館者数：3千人

(京都国立近代美術館)

常設展については、関西を中心にした近代美術に関する調査・研究の成果を公開し、幅広い観客層にこたえると同時に、少人数の意欲的な要請にも可能な限りの対応を目指す。

企画展については、各ジャンル(洋画、日本画、工芸、現代美術)のバランスを考慮しつつ、「舞台芸術の世界～ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン～」 「イタリア現代陶芸の巨匠 カルロ・ザウリ展」などにおいて、過去の展覧会活動の成果を継承・発展させることを目指す。また、関西ゆかりの画家たちの回顧展(福田平八郎、麻田浩、文承根+八木正)に加え、現代音楽からテキスタイルアート、舞台芸術等幅広い分野の展覧会を開催する。

目標入館者数計：22万3千人

ア 常設展 目標入館者数：9万4千人

コレクション展「近代の美術・工芸・写真」(306日間)7回展示替え
企画展と関連した小企画及びコレクション展単独での特集企画

イ 企画展 目標入館者数計：12万9千人

(ア)「アール・デコ・ジュエリーの世界 輝きの詩人シャルル・ジャコー、ブシュロン、ラリックらの宝飾デザイン」

期間：平成19年3月6日(火)～4月15日(日)

(36日間(うち平成19年度13日間))

共催：朝日新聞社

目標入館者数：2万5千人(うち平成19年度9千人)

(イ)「ノイズレス:鈴木昭男+ロルフ・ユリウス展」

期間：平成19年4月3日(火)～4月15日(日)(12日間)

夜間3時間のみ開催

共催：京都新聞社

目標入館者数：1千人

(ウ)「福田平八郎展」

期間：平成19年4月24日(火)～6月3日(日)(37日間)

共催：京都新聞社

目標入館者数：1万8千人

- (エ)「舞台芸術の世界～ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン～」
 期間：平成19年6月9日(土)～7月16日(月・祝)(33日間)
 共催：毎日新聞社
 目標入館者数：2万7千人
- (オ)「シビル・ハイネン：LOOK！」
 期間：平成19年6月19日(火)～7月16日(月・祝)(25日間)
 目標入館者数：1万1千人
- (カ)「没後10年 麻田 浩展」
 期間：平成19年7月31日(火)～9月17日(月・祝)(43日間)
 目標入館者数：1万4千人
- (キ)「文 承根・八木 正遺作展」
 期間：平成19年8月7日(火)～9月17日(月・祝)(37日間)
 共催：千葉市美術館
 目標入館者数：6千人
- (ク)「イタリア現代陶芸の巨匠 カルロ・ザウリ展」
 期間：平成19年10月2日(火)～11月25日(日)(48日間)
 共催：日本経済新聞社
 目標入館者数：1万2千人
- (ケ)「新収蔵作品展」
 期間：平成19年12月4日(火)～12月24日(月・祝)(19日間)
 目標入館者数：1万人
- (コ)「玉村方久斗展」
 期間：平成20年1月8日(火)～2月17日(日)(36日間)
 共催：神奈川県立近代美術館
 目標入館者数：8千人
- (サ)「ドイツのポスター 1888～1933」
 期間：平成20年2月26日(火)～3月30日(日)(30日間)
 共催：読売新聞社
 目標入館者数：1万3千人

(国立西洋美術館)

常設展では、美術館コレクションの中核である松方コレクションを中心に据えつつ、中世末期以降20世紀初頭に到る西洋美術の流れを概観できる展示を行う。また、平成14～18年度前期に収蔵した版画作品のうち主要なものを展示することにより、西洋版画の包括的コレクションの形成を目指して継続的に行っている収集活動の成果を示す。さらに、作品を輸送・展示することが困難な領域の美術(建築、壁画等)を写真によって紹介する試みとして、小企画「ロマネスク美術写真展」を開催する。

企画展では、イタリアの都市パルマの個性豊かな美術を世界で初めて包括的に展観する「パルマ展」、近代美術の巨匠として知られるエドヴァルド・ムンクの作品を「装飾プロジェクト」という観点から再検証する「ムンク展」、西洋美術史上の傑作として名高いティツィアーノの《ウルビーノのヴィーナス》を中心にイタリア美術におけるヴィーナス図像の系譜を網羅的に紹介する「ウルビーノのヴィーナス展」を開催する。

目標入館者数計：58万2千人

ア 常設展 目標入館者数計：14万1千人

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」

「近・現代絵画と彫刻」

「平成14-18年度新収蔵版画作品展」

(平成19年3月6日(火)～6月3日(日))

「ロマネスク美術写真展」(平成19年6月12日(火)～8月26日(日))

Fun with collection '07(平成19年夏)

イ 企画展 目標入館者数計：44万1千人

(ア)「イタリア・ルネッサンスの版画 チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」

期間：平成19年3月6日(火)～5月6日(日)

(55日間(うち平成19年度32日間))

目標入館者数：3万人(うち平成19年度2万1千人)

(イ)「パルマ イタリア美術、もう一つの都」

期間：平成19年5月29日(火)～8月26日(日)(79日間)

共催：読売新聞社

目標入館者数：15万人

(ウ)「ムンク展」

期間：平成19年10月6日(土)～平成20年1月6日(日)(76日間)

共催：東京新聞

目標入館者数：21万人

(エ)「ウルビーノのヴィーナス展」

期間：平成20年3月4日(火)～5月18日(日)

(67日間(うち平成19年度24日間))

共催：読売新聞社

目標入館者数：30万人(うち平成19年度6万人)

(国立国際美術館)

常設展については、同時開催の企画展の内容に関連付けた作品を展示するほか、代表的な作品の展示を行う。

企画展については、「皮膚」をテーマに世界と自己との関係を探る現代美術の動向を紹介する展覧会を開催するとともに、開館30周年を迎えるに当たり、所蔵作品を見直し、現代美術の課題と表現の広がりを展望し、これまでのコレクションの成果を披露する展覧会を開催する。

また、世界的な注目を集める写真家杉本博司の新収蔵作品による個展やベルギー、ロシア、オーストラリアの美術を紹介するなど、幅広い観客層の関心に応じる。

目標入館者数計：69万人

ア 常設展 目標入館者数計：23万5千人
「コレクション1～4」 4回展示替え

イ 企画展 目標入館者数計：45万5千人

(ア)「ベルギー王立美術館展」

期間：平成19年4月7日(土)～6月24日(日)(69日間)

共催：読売新聞社

目標入館者数：12万4千人

(イ)「様々な祖型 - 杉本博司新収蔵作品展」

期間：平成19年4月7日(土)～6月24日(日)(69日間)

目標入館者数：12万4千人

(ウ)「藤本由紀夫展 + / -」

期間：平成19年7月7日(土)～9月17日(月・祝)(63日)

目標入館者数：8万8千人

(エ)「ロシア皇帝の至宝展～世界遺産クレムリンの奇跡～」

期間：平成19年7月10日(火)～9月17日(月・祝)(61日間)

共催：TBS

目標入館者数：8万8千人

(オ)「現代美術の皮膚」

期間：平成19年10月2日(火)～12月2日(日)(54日間)

目標入館者数：1万1千人

(カ)「開館30周年記念展」

期間：平成19年12月18日(火)～平成20年2月11日(月・祝)
(42日間)

目標入館者数：1万人

(キ)「エミリー・カーム・イングワレー展」

期間：平成20年2月26日(月)～4月13日(日)

(42日間(うち平成19年度30日間))

共催：読売新聞社

目標入館者数：1万4千人(うち平成19年度1万人)

(国立新美術館)

自主企画展において、建築とファッションの分野を取り上げる「スキン+ボーンズ - 1980年代以降の建築とファッション」、若手作家の先鋭な活動をグループ展で紹介する「アーティスト・ファイル」、さらに同館の美術資料の収集事業と連動したドキュメント展示「安斎重男展」を開催し、現代の多様な美術動向の紹介に努める。

共催展においては、広く近現代美術を対象とし、新たな視点による展覧会を実現する。「大回顧展モネ - 印象派の巨匠、その遺産 - 」では20世紀に描かれた絵画を加え、モネが現代美術に与えた影響を探る。「日展100年展」では公募団体の新しい拠点となる同館において、官展が果たした役割と近代美術の成果を検証する。

目標入館者数計：91万6千人

- ア 「異邦人(エトランジェ)たちのパリ1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展」
期間：平成19年2月7日(水)～5月7日(月)
(79日間(うち平成19年度33日間))
共催：朝日新聞社、テレビ朝日、ポンピドー・センター
目標入館者数：20万人(うち平成19年度10万人)
- イ 「大回顧展モネ - 印象派の巨匠、その遺産 - 」
期間：平成19年4月7日(土)～7月2日(月)(76日間)
共催：読売新聞社
目標入館者数：25万人
- ウ 「スキン+ボーンズ - 1980年代以降の建築とファッション」
期間：平成19年6月6日(水)～8月13日(月)(60日間)
目標入館者数：3万人
- エ 「日展100年展」
期間：平成19年7月25日(水)～9月3日(月)(36日間)
共催：日本経済新聞社、社団法人日展
目標入館者数：10万人
- オ 「安斎重男展」
期間：平成19年9月5日(水)～10月22日(月)(42日間)
目標入館者数：2万1千人
- カ 「アムステルダム国立美術館所蔵フェルメールの《牛乳を注ぐ女》とオランダ風俗画」展
期間：平成19年9月26日(水)～12月17日(月)(72日間)
共催：東京新聞、NHK、NHKプロモーション
目標入館者数：20万人
- キ 文化庁芸術家在外研修制度40周年記念
文化庁芸術家在外研修の成果 「「旅」展 - 異文化との出会い、そして対話 - 」
期間：平成19年12月15日(土)～平成20年1月28日(月)(27日間)
共催：文化庁芸術家在外研修会美術部門「旅」展実行委員会
目標入館者数：1万5千人
- ク 平成19年度(第11回)「文化庁メディア芸術祭」
期間：平成20年2月6日(水)～2月17日(日)(11日間)
共催：文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁、CG-ARTS協会)
目標入館者数：2万人
- ケ 「没後50年横山大観展」
期間：平成20年1月23日(水)～3月3日(月)(36日間)
共催：朝日新聞社
目標入館者数：15万人
- コ 「アーティスト・ファイル」
期間：平成20年3月5日(水)～5月5日(土)

- (54日間(うち平成19年度24日間))
目標入館者数：2万7千人(うち平成19年度1万2千人)
- サ 「モディリアーニ展」
期間：平成20年3月26日(水)～6月9日(土)
(66日間(うち平成19年度6日間))
共催：日本経済新聞社
目標入館者数：20万人(うち平成19年度1万8千人)

国立美術館 目標入館者数計：312万人
常設展(展示) : 71万8千人
企画展(企画上映)：240万2千人

-2 国立美術館全体の所蔵作品を最大限に活かした、展覧会開催の検討を行う。

地方における鑑賞機会の充実を図るため、全国の公私立美術館等と連携し、地方巡回展及び優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパ美術の精華 神々と自然のかたち」

(担当館：国立西洋美術館)

国立西洋美術館の所蔵する絵画、彫刻、版画から、神話や宗教などの主題と風景の主題を中心に作品を選択し、16世紀から20世紀に至るヨーロッパ美術の流れを紹介する。

(ア) 期間：平成19年11月4日(日)～12月2日(日)

会場：姫路市立美術館(兵庫県)

(イ) 期間：平成19年12月11日(火)～平成20年2月3日(日)

会場：松本市美術館(長野県)

イ 各館の巡回展

(ア) 東京国立近代美術館工芸館巡回展「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」

東京国立近代美術館工芸館の所蔵する陶芸、染織、漆芸等の各分野から優品を選択し、近代日本の工芸百年の歴史展示を行う。なお、新湊博物館では、併せて地元出身の陶芸家・石黒宗麿の代表的な作品も紹介する。

a 期間：平成19年9月1日(土)～10月9日(火)

会場：石川県輪島漆芸美術館(石川県)

b 期間：平成19年10月18日(木)～12月16日(日)

会場：射水市新湊博物館(富山県)

(イ) 京都国立近代美術館巡回展

名古屋松坂屋及び盛岡市民文化ホールでは、浅井忠、坂本繁二郎、須田国太郎など同館所蔵洋画作品の優品約90点を選び、近代洋画の流れを概観する展覧会を開

催す。また、呉市立美術館においては、竹内栖鳳、村上華岳、福田平八郎など所蔵日本画の優品約60点により、近代京都画壇の歴史を概観する展覧会を開催する。

- a 「京都国立近代美術館所蔵洋画巡回展」
期間：平成19年4月25日（水）～5月20日（日）
会場：名古屋松坂屋（愛知県）
- b 「京都国立近代美術館所蔵洋画巡回展」
期間：平成19年11月1日（木）～12月2日（日）
会場：盛岡市民文化ホール（岩手県）
- c 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」
期間：平成19年4月21日（土）～5月27日（日）
会場：呉市立美術館（広島県）

（ウ）国立西洋美術館は、版画コレクションによる地方巡回展の実施可能性について、さらに検討を続ける。

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性について、理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：88作品22プログラム（1プログラム4作品）

小津安二郎、成瀬巳喜男など日本映画史を彩る名匠たちの代表作や、石原裕次郎、原節子などスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画などジャンルを代表する名作、時代を画した話題作などで構成

期間：平成19年7月17日（火）～平成20年3月16日（日）

会場：全国130会場以上

国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

（2）美術創造活動の活性化の推進

国立新美術館は、美術団体等が行う展覧会（公募展）に対して、会場を提供する業務を行う。

ア 平成19年度及び平成20年度に施設を使用する美術団体

（ア）平成19年度に施設を使用する美術団体等に会場を提供する。

（イ）美術団体等が作品搬入や審査等を行う作品整理室及び審査室等について、効率的な使用が可能となるよう利用調整を図る。

（ウ）使用についての手引き（資料）の検証を行い、効率的かつ円滑な実施が図られるよう手引きの充実に努める。

（エ）施設及び備品等の維持管理及び保全に関する態勢を整える。

（オ）美術団体等が行う展覧会の入場者数等の報告管理の態勢を整える。

イ 平成21年度以降の準備

(ア) 平成21年度に施設を使用する美術団体等の決定

(イ) 平成22年度に施設を使用する美術団体等の募集

メディアアートなど、国際的にも注目される新しい領域の芸術表現作品の展覧会の充実にについて検討する。

ア 京都国立近代美術館は、平成20年度にマルチメディアとロボット工学の成果を駆使する現代美術家・椿昇の個展、平成21年度に南アフリカのアニメーション作家ウィリアム・ケントリッジの展覧会を開催するための準備を行う。

イ 国立西洋美術館は、ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館設計に関する資料の収集・整理・調査を行い、ル・コルビュジエ資料展の実施について検討する。

ウ 国立新美術館は、「スキン+ボーンズ-1980年代以降の建築とファッション」展及び「文化庁メディア芸術祭」を開催する。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

国立美術館は、所蔵作品、展覧会活動、その他の活動状況を積極的に広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう努める。

ア 特に、所蔵作品のデータのデジタル化及び公開を推進するため、日本画家に続き、国内洋画家の著作権許諾手続きを進め、国立美術館所蔵作品総合目録検索システムの掲載画像の増加に努める。併せて、同システムにおいて、作家及び作品に関わる解説文の閲覧を可能にするようコンテンツの充実を図る。また、ネットワークの一元管理を図るとともに、各館の所蔵作品管理システム統合の検討を進める。

イ 国立新美術館においては、国内の美術館等で開催される展覧会に関する情報を収集し、インターネット等を介して提供するシステム(「アートコモンズ」)の一層の充実に努め、公募団体展、画廊展の情報についても収録対象に加える。また、海外美術研究拠点(フォーリア美術館、ハイデルベルク大学図書館、コロンビア大学エイヴリー建築・美術図書館及びシドニー大学フィッシャー図書館)に国内美術展カタログを寄贈する。

各館のホームページを活用して、展覧会情報や調査研究成果の公表等、積極的な情報発信に努める。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要掲載論文をホームページで公開する。

イ 海外への情報発信の強化のため、英語版ホームページにおけるデータの蓄積を進める。

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会図録を寄贈している京都府立図書館、大阪府立中央図書館、滋賀県立図書館、兵庫県立図書館、奈良県立図書館の蔵書リストを同館ホームページに掲載し、随時更新する。

イ 日本語・英語版ホームページの充実を図る。

(国立西洋美術館)

- ア 所蔵図書データを公開する。
- イ ホームページと収蔵作品検索システムの連携を行う。
- ウ 国立西洋美術館ニュース、年報をホームページで公開する。
- エ 作品の鑑賞機会の充実に資するため、ホームページ上のコレクション情報(常設展) の拡充を図る。

(国立国際美術館)

- ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報を掲載する。
- イ 英語版ホームページの充実に図る。

(国立新美術館)

- ア 展覧会事業、情報収集・提供事業、教育普及事業など、館の事業情報等を広く普及 広報するため、ホームページの掲載情報の充実に図るとともに、適切に更新する。
- イ 英語版ホームページの充実に図る。

美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アートライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

- ア 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館においては、美術図書館連絡会に参加し、美術館図書室の蔵書の横断的な検索や資料の利用、情報提供の高度化を図る。
- イ 東京国立近代美術館において、常設展で実施している現代美術の所蔵作家による自作解説(アーティストトーク) のビデオソフトをアートライブラリーにおいて閲覧に供する。
- ウ 国立西洋美術館において、情報コーナーの図書資料の充実に努めるとともに、作品情報端末を新たに設置する。また、中世末期以降 20 世紀初頭に到る西洋美術に関する情報及び資料の重点的収集に努めるとともに、国内における西洋美術史研究のセンター的機能を担うための方策を検討する。
- エ 国立新美術館においては、アートライブラリーの図録・図書資料の充実に努める。

(4) 国民の美的感性の育成

美術の一層の普及のため、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や学校で活用できる教材の開発などの事業を行う。また、学校や社会教育施設に対する、これら事業の広報に努める。

(東京国立近代美術館)

< 本館 >

企画展ごとに講演会、ギャラリートーク等を実施するとともに、常設展においてガイドスタッフ(ボランティア) によるガイドツアーなどを実施するほか、以下の教育プログラムを実施する。

- ア 小・中・高等学校からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラリートークやガイダンスの実施

- イ 小・中学生を対象とする鑑賞プログラム（夏休み）の実施及びその実践例の教員への提供
- ウ 鑑賞教育の場としての美術館の普及に資するため、小・中・高等学校の教員に対する企画展の解説・鑑賞機会（年2回程度）の提供
- エ 企画展に関する講演会（6回）及びギャラリートーク（3回）の実施及び研究員や作家等による常設展に関するギャラリートーク（37回）の実施

<工芸館>

美術館利用による鑑賞教育の充実に資するために、学校等との連携協力関係を強化するとともに、対象の年齢や経験に適応した指導案の提供、教材の開発を行う。また、来館者の興味や関心を一層高めるため、展覧会ごとにギャラリートークや講演会等を実施する。

- ア 児童・生徒のための工芸作品の鑑賞補助資料及び教員等向けの指導案の開発
- イ 児童・生徒を対象とした陶芸の技法体験を通じた、工芸作品の鑑賞教育のモデルケースの開発
- ウ 美術大学などの教員、学生の特別観覧（熟覧）の推進
- エ 工芸課研究員のほか、外部研究者や作家によるギャラリートーク（18回）や講演会（2回）の実施

<フィルムセンター>

- ア 企画上映・企画展におけるギャラリートーク等の実施
- イ 上映と講義で構成する18歳以上を対象とした「中央区民カレッジ」の実施（3ヶ月間（5回程度）、中央区教育委員会との共同事業）
- ウ 小・中学生を対象とした「こども映画館」を実施（夏休み期間、4日間程度）
- エ 相模原市内の小・中学生を対象とした上映会を実施（相模原市教育委員会との連携事業、2～3回程度）

（京都国立近代美術館）

美術鑑賞教育への関心を高めることを重点目標に置き、外部からの自発的要望を積極的に支援し、現場指導者の質の向上及び指導者の数的拡大を目指す。

- ア 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会等の受入れの促進
- イ 教員やNPO団体の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の受入れ
- エ 高等学校・大学の授業現場との積極的連携を図る
- オ 企画展に関連した講演会（11回程度）、コンサート（1回）の実施

（国立西洋美術館）

より多くの人々に美術と美術館に親しんでもらうためのプログラム、コレクションを活用したテーマ性のある企画、対象を限定したプログラムなど、それぞれの効果を考慮した幅広いレベルと内容のプログラムを提供する。

- ア Fun with Collection'07、また、これに関連した講演会及び創作・体験プログラムなどの実施（6回）
- イ Fun Day'07開催時に、美術館と作品を楽しむ自由参加型プログラムの実施（4種類）
- ウ 企画展に関連した「先生のための観賞プログラム」の実施（小・中・高等学校の教員対象）（2回）
- エ ファミリー・プログラム「びじゅつーる」の貸出（4回）

- オ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」の実施（１２回）
- カ 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施（予約制）
- キ クリスマス・プログラムの実施（４回）
- ク 障害者を対象とする特別プログラムの実施（２回）
- ケ 企画展に関連した講演会（８回程度）、スライドトーク（１４回程度）、音楽プログラム（１回）の実施

（国立国際美術館）

企画展ごとに講演会、ギャラリートークを実施するとともに、開館３０周年を記念したシンポジウムを開催する。また、以下の教育プログラムを実施する。

- ア 鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（１回）
- イ 鑑賞実践プログラムに関連した「こどもびじゅつあー」の実施（６回）
- ウ 鑑賞支援制作プログラムに関連した「こどものためのワークショップ」の実施（４回）
- エ 大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ
- オ 小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ
- カ 教員研修の実施（予約制）
- キ 企画展に関連した講演会（９回程度）、ギャラリートーク（７回程度）の実施

（国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やギャラリートークを実施するほか、より多くの人々が美術に触れ、美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会に合わせた講演会、ギャラリートーク等の開催（１４回）
- イ 作家等によるワークショップや講演会の開催（４回）
- ウ 子どもを対象としたワークショップや美術ツアーの実施（２回）
- エ 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドの配付（１回）
- オ 公募団体等との連携によるワークショップやギャラリートークの実施
- カ 学校、各種団体への鑑賞ガイダンスの実施

ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

（東京国立近代美術館）

<本館>

- ア ガイドスタッフ（ボランティア）３０人程度により、常設展の所蔵作品ガイド及び「ハイライト・ツアー」（無料観覧日である毎月第１日曜日）を実施する。
- イ 小・中学生グループの受け入れなど、鑑賞プログラムの充実を図る。

<工芸館>

ガイドスタッフ（ボランティア）２０人程度により、展示解説と類似作品に触れる鑑賞教室（大人、子ども、並びに外国人対象の英語によるもの）を実施する。

（京都国立近代美術館）

- ア 「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会等との連携による、ボランティアの受入れ、活動の充実を図る。
- イ 友の会の活動において、京都市立芸術大学との連携による定期演奏会、見学会、ワークショップ等の事業を実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティアスタッフによる、ファミリープログラム及び小・中・高校生の団体を対象とした常設展でのスクール・ギャラリートークを実施する。ファミリープログラムの「どようびじゅつ」については企画にも参加して内容の充実を図る。その他に、Fun with Collectionに関連したプログラム補助を行う。

イ 都立上野高校の「奉仕」課外授業に協力し、高校生ボランティアを活用する。

(国立国際美術館)

ア 学生ボランティアを受入れ、講演会、ワークショップ等のプログラムに参加させる等、活動の充実を図る。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図る。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受入れる。

イ 賛助会員制度及び友の会制度の導入を引き続き検討する。

(5) 国立美術館における展示、教育普及その他の美術館活動の推進を図るため、調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動に反映させる。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。

(東京国立近代美術館)

< 本館 >

展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 鬚光に関する研究 (広島県立美術館、宮城県美術館との共同研究)

イ アンリ・カルティエ＝ブレッソンに関する調査研究 (アンリ・カルティエ＝ブレッソン財団との共同研究)

ウ アンリ・ミショーに関する調査研究 (アンリ・ミショー・アルカイヴとの共同研究)

エ 平山郁夫に関する調査研究 (広島県立美術館との共同研究)

オ 日本近代彫刻史に関する調査研究 (宮城県美術館、三重県立美術館との共同研究)

カ 東山魁夷に関する調査研究 (長野県信濃美術館との共同研究)

キ アジアを中心とする線描芸術に関する調査研究 (京都国立近代美術館等との共同研究)

ク 沖縄の美術に関する調査研究 (沖縄県立美術館建設準備室との共同研究)

ケ 小野竹喬に関する調査研究 (笠岡市竹喬美術館、大阪市立美術館との共同研究)

コ ウィリアム・ケントリッジにおける絵画とアニメーションの関係に関する調査研究 (京都国立近代美術館との共同研究)

教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。

ア 美術館教育に関する調査研究 (鳴門教育大学、東京学芸大学等 (科研) ; 東京都図画工作研究会との共同研究)

イ 美術館情報システムに関する調査研究 (国立情報学研究所、東京国立博物館情報課との共同研究)

<工芸館>

展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

- ア 岡部嶺男に関する調査研究（岐阜県現代陶芸美術館、山口県立萩美術館との共同研究）
 - イ カルロ・ザウリに関する調査研究（京都国立近代美術館との共同研究）
 - ウ ルーシー・リーに関する調査研究（兵庫県陶芸美術館との共同研究）
 - エ 近現代工芸の特質に関する調査研究（石川県立輪島漆芸美術館、射水市新湊博物館との共同研究）
 - オ 現代工芸における伝統的様式の調査研究（大英博物館、セインズベリー日本芸術研究所との共同研究）
 - カ 戦後デザインの成立と展開についての調査研究（愛知教育大学、多摩美術大学との共同研究）
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 染織及び陶芸作品の鑑賞理論の構築と美術館教育の調査研究（東京家政大学、多摩美術大学との共同研究）
 - イ 児童・生徒を対象とした鑑賞と制作体験の連動による工芸作品理解の推進のための調査研究（山口県立萩美術館・浦上記念館との共同研究）

<フィルムセンター>

収集・保存のための調査研究を次のとおり実施する。

- ア 海外を含めた未発見の映画フィルムの所在調査（全米日系人博物館との共同研究）
 - イ 映画フィルムの保存，デジタル技術を活用した復元に関する調査研究（国際フィルム・アーカイブ連盟同種研究機関等との共同研究）
- 上映会、展覧会及び教育普及事業のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア マキノ雅広監督に関する調査研究（立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究）
 - イ 今村昌平監督と黒木和雄監督に関する調査研究
 - ウ 川島雄三監督に関する調査研究
 - エ 日本の映画女優（スチル写真）に関する調査研究
 - オ チャールズ・チャップリンと日本との関係に関する調査研究（日本チャップリン協会との共同研究）
 - カ ウズベキスタン映画に関する調査研究（ウズベキスタン国立映画委員会、ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金、ウズベキスタン映画祭実行委員会との共同研究）
 - キ ポーランド短篇映画に関する調査研究（ウッジ映画大学、ポーランド映画選実行委員会との共同研究）
 - ク 子ども向けの映画教育プログラムに関する調査研究（コミュニティシネマ支援センター等との共同研究）

（京都国立近代美術館）

展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

- ア ロシアバレエの舞台デザインの調査研究（ディアギレフを中心に）（北海道立釧路芸術館、東京都庭園美術館、青森県立美術館との共同研究）

- イ 現代テキスタイルアートの彫刻的展開に関する調査研究
 - ウ 文承根と八木正及び1980年頃の日本現代美術の調査研究(千葉市美術館との共同研究)
 - エ カルロ・ザウリとイタリア現代陶芸に関する調査研究(東京国立近代美術館、岐阜県現代陶芸美術館、山口県立萩美術館、浦上記念館との共同研究)
 - オ 玉村方久斗と昭和初期日本画の新動向に関する調査研究(神奈川県立近代美術館との共同研究)
 - カ ドイツ近代ポスターに関する調査研究(宇都宮美術館との共同研究)
 - キ インターナショナル・アーツ・アンド・クラフツと日本との関係に関する調査研究(ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館との共同研究)
 - ク 現代音楽と美術の領域に関する研究(鈴木昭男とロルフ・ユリウスを中心に)(京都国際現代音楽フォーラム、立命館大学との共同研究)
教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
 - ア 上野伊三郎・上野リッチ作品資料に基づく、近代日本建築史の調査研究(京都工芸繊維大学、京都女子大との共同研究)
 - イ 池田満寿夫版画作品の調査研究
 - ウ 館所蔵の日本画、洋画、工芸作品についての調査研究
 - エ 多様なミュージアム・アクセスを探る調査研究(京都造形芸術大学との共同研究)
- (国立西洋美術館)
- 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア イタリア・ルネサンス時代の版画に関する調査研究(チューリヒ工科大学版画素描館との共同研究)
 - イ 15世紀末～17世紀のパルマ派美術の調査研究(パルマ国立美術館との共同研究)
 - ウ エドヴァルド・ムンクの装飾プロジェクトに関する調査研究(兵庫県立美術館との共同研究)
 - エ イタリア美術におけるヴィーナス図像に関する調査研究(ウフィツィ美術館との共同研究)
 - オ フランス諸地域のロマネスク聖堂に関する調査研究
教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
 - ア 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
 - イ 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
 - ウ 平成14年度以降収集した館蔵版画作品に関する調査研究
 - エ 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究(ポール・ゲティ美術館、テート・ロンドンとの共同研究)
 - オ 美術館教育に関する調査研究(東京大学との共同研究)
 - カ 館蔵資産の資源化に関する調査研究
 - キ 「火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」(科学研究費補助金)4年目
 - ク 「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」(科学研究費補助金)4年目
 - ケ 「19世紀仏の挿絵入り美術出版物に関する調査研究」(科学研究費補助金)2年目

(国立国際美術館)

展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

- ア 藤本由紀夫に関する調査研究(和歌山県立近代美術館、西宮市大谷記念美術館と共同研究)
- イ ロシア美術に関する調査研究(モスクワ・クレムリン博物館、江戸東京博物館との共同研究)
- ウ 人体表現に関する美術の調査研究(アジア次世代キュレーター会議での共同研究)
- エ エミリー・カーメ・イングワレー(オーストラリアのアボリジニー美術)に関する調査研究(オーストラリア国立博物館、国立新美術館との共同研究)
- オ 中国現代美術に関する調査研究(国際交流基金、国立新美術館との共同研究)
教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 美術館教育に関する調査研究
- イ 日本の現代美術に関する調査研究
- ウ 国際的、特にアジアの現代美術に関する調査研究
- エ アジアのキュビズムに関する調査研究(国際交流基金、神奈川県立近代美術館、上智大学、東京国立近代美術館との共同研究)
- オ メディアアートに関する調査研究(三重県立美術館、東京都写真美術館との共同研究)
- カ 「モダニズムと中東欧の近代芸術に関する国際・学術共同研究」(科学研究費補助金)
- キ 「知の統合力を育成する鑑賞学習支援システムの開発」(科学研究費補助金)

(国立新美術館)

展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。

- ア 日本の現代美術の動向に関する調査研究
- イ クロード・モネについての調査研究(オルセー美術館との共同研究)
- ウ 現代の建築とファッションにおける近似的な表現についての調査研究(ロサンゼルス現代美術館との共同研究)
- エ 官展史及び日展史に関する調査研究(宮城県立美術館他との共同研究)
- オ 17 - 19世紀におけるオランダ風俗画についての調査研究(アムステルダム国立美術館との共同研究)
- カ フェルメールについての調査研究(アムステルダム国立美術館との共同研究)
- キ 横山大観についての調査研究(横山大観記念館他との共同研究)
- ク モディリアーニとプリミティヴィズムについての調査研究(国立国際美術館との共同研究)
- ケ エミリー・カーメ・イングワレーについての調査研究(オーストラリア国立博物館、国立国際美術館との共同研究)
- コ オーストラリアのアボリジニー美術についての調査研究(オーストラリア国立博物館、国立国際美術館との共同研究)
- サ 中国現代美術に関する調査研究(国際交流基金、国立国際美術館との共同研究)
教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 美術館教育に関する調査研究

- イ 日本の近現代美術資料に関する調査研究
- ウ 戦後の公立美術館における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究
- エ 美術情報の収集・提供システムに関する調査研究
- オ 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究

(6) 快適な観覧環境等の提供

各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するため、展示や解説パネル等の工夫を行う。

(東京国立近代美術館)

<本館>

- ア 常設展音声ガイドを開始する。
- イ 音声ガイドの開始に合わせ、常設展のセクション間の誘導や順路の案内に関しての改良の研究と検証を進める。また、デジタル・ディスプレイによる常設展情報提供の改良を図る。
- ウ 常設展鑑賞手引き「鑑賞ノススメ」を各階に配置する。
- エ 「所蔵作品展フロアプラン(日本語、英語、仏語、独語、中国語、韓国語)」を配付する。

<工芸館>

- ア フロアプラン、作品名の読み、作品の素材を記載した出品リストを配布する。
- イ 音声ガイドの導入を検討する。
- ウ 鑑賞カードを配布する。

<フィルムセンター>

- ア 展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。
- イ 携帯電話サイトによる上映番組案内等の発信を行う。
- ウ 「映画の広場」において、大型ディスプレイにより、上映作品や展覧会情報を提供する。

(京都国立近代美術館)

- ア 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- イ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行:(財)大阪21世紀協会)展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。

(国立西洋美術館)

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイドを配布する。
- イ 企画展「作品リスト(日本語、英語)」及び小・中学生向け解説「ジュニアパスポート」を配布する。

(国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット(日本語、英語、中国語、韓国語)を配布する。
- イ 展覧会において可能な限り「フロアガイド」を配布する。
- ウ 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を配布する。
- エ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行:(財)大阪21世紀協会)に展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。

(国立新美術館)

- ア 展覧会において可能な限り「フロアガイド」を配付する。
- イ 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを配付する。

入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

- ア 展覧会の混雑状況を考慮し、開館時間の延長等柔軟な対応を行う。
- イ 学生等の美術鑑賞への興味と関心を高めるため、メンバー校の学生等の観覧料を無料、または割引とするキャンパスメンバーズ制度を開始する。
- ウ 東京国立近代美術館本館・工芸館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して常設展の割引観覧を実施する。
- エ 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2007」に参加し、入館料の低廉化を図る。

(東京国立近代美術館)

- ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、常設展等を廉価で観覧できるパスポート観覧券の普及に努める。
- イ 共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加し、入館料の低廉化を図る。

<本館・工芸館>

- ア 年始は1月2日(水)から開館する。
- イ 休館日のうち、4月2日(月)、5月1日(火)を開館する。

<フィルムセンター>

- ア 企画上映「映画監督 川島雄三」、「生誕百年 映画監督 マキノ雅広」及び共催上映「第8回東京フィルメックス」において、1日3回上映を実施する。
- イ 小ホールにおいて「京橋映画小劇場」と題する上映会を年間5企画程度実施し、また、新たに共催上映「EUフィルムデーズ2007」「ポーランド短篇映画選」において連続上映(12日間、各2回上映)を実施する。
- ウ 回数券等を含む会員制度の導入について検討する。

(京都国立近代美術館)

- ア 休館日のうち、5月1日(火)を開館する。
- イ 大文字・五山送り火の日である8月16日(木)に夜間開館を実施する。

(国立西洋美術館)

- ア 自主企画展「イタリア・ルネサンスの版画」において、割引券を発行する。
- イ クレジットカードによる観覧券の販売を行う。
- ウ 休館日のうち、5月1日(火)、8月13日(月)を開館する。
- エ 年始は1月2日(水)から開館する。
- オ 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間について、閉館時間を午後5時30分まで延長する。
- カ 美術館無料開放日「Fun Day」を開催し、より多くの人々にコレクションと美術館をアピールする。
- キ 12月にクリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催する。

(国立国際美術館)

- ア 小学6年生以下の子どもを対象とした託児サービスを実施する。
- イ 休館日のうち、5月1日(火)を開館する。
- ウ 企画展開催中の金曜日の閉館時間を午後7時まで延長する。

(国立新美術館)

- ア 休館日のうち、5月1日(火)を開館する。
- イ 企画展の開催中、5月3日(木)及び5月5日(土)に夜間開館を実施する。
- ウ 近隣の美術館と「六本木アート・トライアングル」を構成し、相互割引制度の実施に努める。
- エ 施設を使用する美術団体等と連携し、可能な限り企画展との観覧料割引制度の実施に努める。
- オ 可能な限り同時期に開催される企画展の同時割引の実施に努める。

利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
なお、国立国際美術館ではキッズルームの充実を努める。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

- (1)-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。なお、作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

近代日本の美術の流れを網羅する美術館にふさわしい所蔵作品の充実を目指して、その収集に努める。特に、平成19年度は次のような点に留意する。

1950年前後の欧米の代表的作家の絵画作品、やや手薄である昭和戦前期の日本画など歴史的な作品の補完

近年新たに勃興しつつある、比較的若い世代の作家による映像作品や写真作品の収集

パブリックスペースに設置する作品の収集

<工芸館>

欠落の大きい明治の工芸、戦後1960～70年代の代表的作品の収集

1960～80年代のイギリス陶芸の代表的作品の収集

1960～70年代のヨーロッパデザインの代表的作品の収集

<フィルムセンター>

我が国で製作された映画すべてを収集・保存するフィルムセンターとして、積極的な収集活動を行う。特に、平成19年度は次のような点に留意する。

戦前の日本映画を中心に、散逸が懸念される映画フィルムや劣化が著しく緊急に保存を必要とする映画フィルムの優先的な収集

映画史上の重要な作品で、劣化が懸念される映画フィルムの収集

戦後公開された日本劇映画のうち、比較的収集率の低い50年代後半から60年代の映画フィルムの収集

日本映画製作者協会等の協力を得て、比較的収集率の低い90年代以降の映画フィルムの収集

主に寄贈により収集を行っている日本文化・記録映画や日本ニュース映画について、これまで受け入れのなかった会社を中心に、寄贈の呼びかけの実施

デジタル技術を活用した映画フィルムの修復・復元及びその複製物の収集

企画上映に必要となる作品及び過去3年間に逝去した映画人の代表作の収集

国際フィルム・アーカイブ連盟加盟機関等との国際交流事業にとって必要な映画フィルムの収集

(京都国立近代美術館)

我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で主として美術・工芸について、近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品、近代美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集にも努める。また、併せて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させる。

また、故・池田満寿夫が所蔵した版画作品約900点の寄贈を受け入れ、国内で最も充実した池田満寿夫版画コレクションを構築する。さらに、故・川西英が所蔵した創作版画作品・資料の収集を継続し、創作版画の集中的アーカイブの構築を目指す。

京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。また、村上華岳、富田溪仙などの収集を継続し、京都画壇作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

昭和前期に輸入され現在国内に残る旧松方コレクション作品の収集に努めるとともに、18世紀～19世紀初頭、20世紀初頭など常設展において比較的手薄な時代のヨーロッパ絵画の収集にも努める。また、ドイツ・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションをさらに充実させる。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主として、次のとおり収集する。

1945年以降の日本の現代美術の系統的収集(日本の現代彫刻を跡づける主要作)

1945年以降の欧米の現代美術の系統的収集(1960年代アメリカ絵画の主要作)

国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集(1990年代以降の絵画の動向)

(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、常設展等における積極的な活用を図る。

(1)-3 各館の陳列品購入費を一部留保し、高額作品の購入、緊急な購入等に対応する。なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2)-1 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

国立美術館各館が所蔵する美術作品、映画フィルム、図書・資料等の増大に対応するため、相模原地域の活用方法を含め、収蔵施設・設備等の拡充について検討する。

京都国立近代美術館においては、収蔵庫の収蔵スペースを確保するため、ラック及び収蔵棚の増設を実施する。

(2)-2 東京国立近代美術館本館及び国立西洋美術館において、老朽化した空調用設備の更新及び改修工事を行い、環境整備を図る。

(3) 所蔵作品の保存状況を把握し、緊急に処置を必要とする所蔵作品から、分野ごとに計画的に修復を行う。

東京国立近代美術館本館では、保存科学と修復に関する外部の専門家の定常的な協力を得て、全所蔵作品の体系的かつ詳細な状況を把握するための体制整備を検討する。

東京国立近代美術館工芸館では、温湿度の適正な調整を行い、全般的な作品の保全に努めるとともに、緊急度の高いものから修復を行うこととし、黴の発生が認められる染織作品の修復を実施する。

(4) 国内外の博物館・美術館、大学等と連携し、所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を実施し、その成果を業務に反映させる。

東京国立近代美術館工芸館では、石川県立輪島漆芸技術研究所及び目白漆芸研究所、共立女子大学等と、所蔵する漆芸ならびに染織作品の保管と修復に関する調査研究を実施する。

京都国立近代美術館では、客員研究員の指導のもとに、写真作品の管理保管システム再編成を調査研究し、安全で迅速な利用態勢を整える。

国立西洋美術館では、免震彫刻台座の研究開発を行う。また、作品貸与期間中の温湿度記録の分析報告書を作成するとともに、世界基準に則するファシリティ・レポート日本語版書式の作成を検討することにより、作品貸与に伴う保存環境の整備に関する調査研究を推進する。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって広く発信する。

(東京国立近代美術館)

研究紀要、展覧会や企画上映に伴う図録、「現代の眼」、「NFCニューズレター」などの刊行物を発行する。

東洋陶磁学会研究会、工芸館30周年記念展研究会等において研究発表を行う。

(京都国立近代美術館)

展覧会に伴う図録、美術館ニュース「視る」を発行する。

京都国立近代美術館研究誌「CROSS-SECTION(S)」を創刊する。

コレクションギャラリーでの小企画に対応した研究論文をホームページ上に公開する。

岡山県立美術館との共同研究「河井寛次郎」の研究成果を小冊子あるいはホームページ上で公開する。

(国立西洋美術館)

年報、研究紀要、展覧会に伴う図録、「国立西洋美術館ニュース」を発行する。

展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

展覧会に伴う図録及び「美術館ニュース」を発行する。

開館30周年記念シンポジウム記録集を発行する。

(国立新美術館)

展覧会に伴う図録及び「国立新美術館ニュース」を発行する。

中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを発行する。

「日本の美術展覧会開催実績報告書」2004年版を発行する。

(2)-1 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

東京国立近代美術館本館では、「日本彫刻の近代」展に際して、近代日本彫刻史をめぐりシンポジウムを開催する。

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007」において、映画フィルム保存に関するシンポジウムを開催する。

京都国立近代美術館では、「現代音楽と美術の場」に関するシンポジウムを開催する。

国立国際美術館では、開館30周年を記念し、この30年間の現代美術に関するシンポジウムを開催する。

国立新美術館では、「モネ・シンポジウム」(共催：日仏美術学会)、「日本色彩学会第38回全国大会」(共催：日本色彩学会)、「アート・ドキュメンテーション学会2007年度年次大会」(共催：アート・ドキュメンテーション学会)を開催する。

(2)-2 海外の美術館において、日本の作家や美術作品を紹介する展覧会を次のとおり実施する。

「アジアのキュビズム」展

期間：平成19年5月16日（水）～7月7日（土）

会場：パリ日本文化会館

主催：国際交流基金

協力：東京国立近代美術館

「わざの美：日本の伝統工芸50年」展

期間：平成19年7月19日（木）～10月21日（日）

会場：大英博物館（ロンドン）

主催：大英博物館、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、日本工芸会、
国際交流基金

協力：文化庁、全日本空輸株式会社

企画協力：朝日新聞社

- (3) 国際フィルム・アーカイブ連盟加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルム等の保存・修復活動を行う。
- (4) 所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。
東京国立近代美術館では、写真作品のプリントスタディー制度を充実させ、内外の写真研究者や写真教育機関との連携を図る。
国立西洋美術館では、外部の研究者等に対し、版画・素描作品の閲覧制度を実施する。
- (5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。
小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材を開発する。
各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子どもたちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中学校の教員と学芸員が一堂に会し、グループ討議等を行う鑑賞教育に関する研修を実施する。
- (6) インターンシップ等の事業を次のとおり実施する。
各館においてインターンシップ制度を実施する。
東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。
国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して西洋美術に関する人材を教育する。
国立国際美術館において、海外からインターンを受入れる。

(7) 美術館の学芸担当職員等を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の向上を図る。

(8)-1 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として次のとおり実施する。

「第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007」を開催する。

文化庁が実施する「日本映画情報システム」の運営に主体的に協力する。

国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。

映画関係団体や大学等との連携協力を推進するための会議等を年間2～3回程度主宰する。

ア 「日本映画の海外普及に関する関係諸団体との会合」

イ 映画関連団体と連携した「上映者ネットワーク会議2007」

大学・専門学校等外部機関との連携による、フィルム上映を伴う映画史・映画芸術講座等を開催する。また、映画の保存等に関する専門家養成講座の開催について検討を進める。

文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力する。

文化庁芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会」に協力する。

(8)-2 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内における独立した一館となるべく、その機能拡充について、内部検討会及び評議員会等において検討を行う。

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。
 - 本部において決算業務を一元的に行う。
 - 人事給与システムの更新を行う。
 - 京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館におけるネットワークシステムの集中管理化を進める。
 - 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館において、エネルギー効率の高い空調設備等への更新工事を開始する。
 - 廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化及び減量化を推進する。
 - 施設の有効利用のため、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図る。
 - 複数年契約等契約事務の合理化を推進するための検討を行う。
 - 外部委託対象業務の範囲拡大及び包括的委託の検討を行う。
 - 少額随意契約基準額の見直しにより、競争入札を推進する。
- 2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善
 - 運営委員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
 - 会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り、併せて組織の活性化を図る。
- 3 国立美術館が管理する情報の安全性向上のため、職員等の情報セキュリティへの意識向上に努める。
- 4 人件費を概ね1%削減する。

予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

- 1 予算（年度計画の予算）
 - 別紙のとおり。
- 2 収支計画
 - 別紙のとおり。
- 3 資金計画
 - 別紙のとおり。

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア 新規採用者・転任者職員研修

イ 接遇研修

外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

1 予算(年度計画の予算)

平成19年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	6,042
展示事業等収入	965
施設整備費補助金	7,075
計	14,082
支 出	
運営事業費	7,007
管理部門経費	2,584
うち人件費	498
うち一般管理費	2,086
事業部門経費	4,423
うち人件費	833
うち展示事業費	2,665
うち調査研究事業費	217
うち教育普及事業費	708
施設整備費	7,075
計	14,082

2 収支計画

平成19年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,768
經常経費	5,768
管理部門経費	2,394
うち人件費	498
うち一般管理費	1,896
事業部門経費	3,262
うち人件費	833
うち展示事業費	1,532
うち調査研究事業費	212
うち教育普及事業費	685
減価償却費	112
収益の部	5,768
運営費交付金収益	4,691
展示事業等の収入	965
資産見返運営費交付金戻入	35
資産見返物品受贈額戻入	77

3 資金計画

平成19年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	14,082
業務活動による支出	5,654
投資活動による支出	8,428
資金収入	14,082
業務活動による収入	7,007
運営費交付金による収入	6,042
展示事業等による収入	965
投資活動による収入	7,075
施設整備費補助金による収入	7,075